

# 白藍塾オリジナル

## 2018入試小論文分析&解答のヒント

2018年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ●早稲田・スポーツ科学部

スポーツ科学部としては、これまでにないタイプの問題。過去問の出題傾向と違いすぎて、どう対応してよいのかわからない受験生が大半だっただろう。ただ、スポーツが一種のゲームであり、ルールなしには成り立たないことを考えると、そうしたスポーツのルールを理解したり新たに作ったりするのに必要な論理的な発想力や企画力、そしてそれを言語化する能力が試されていると言えるかもしれない。いずれにせよ、さっさと頭を切り替えて、課題の意図を的確に読み取ることが先決だ。

まず注意が必要なのは、「ゲー・チョキ・パー」を使う従来のじゃんけんのルールはそのままにすること。つまり、「ゲー・チョキ・パー」の3すくみの関係で成り立つという基本的な枠組みが元になるわけだ。そこに「キュー」という新しい要素を加えることで、どうルールを変えたり、新しいルールを加えたりするとゲームとして成立するのかを考えなくてはいけない。もちろん、単に勝ち負けが決まるというだけでなく、ゲームとしておもしろいものでなくてはならない。

ただ、あまりに複雑なルールにしてしまうと、自分でも收拾がつかなくなってしまう。できるだけシンプルなルールにして、魅力が伝わりやすいゲームにする必要がある。また、1対1だとゲーム性を出しにくいので、多人数で対決するスタイルを想定するほうが考えやすいかもしれない。

書き方としては、プレゼン問題の書き方を応用するとよい。第1部で、自分が考案した新ゲームの目的およびルールを簡単に説明する。第2部で、そのゲームの難点を示した上で、第3部で具体的なルールとその魅力についてくわしく説明する。これであまくまとまるはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>